

2023年1月18日(水)

『ガバナー補佐訪問』

国際ロータリー第2630地区

職業奉仕委員会 委員長 原尾 勝 様

1 国際ロータリー第2630地区 職業奉仕特別大講演会
(令和4年3月25日)

演題:「みんな一緒 平和を」

講師:日本・国連親善大使

国際ロータリー元理事・裏千家15代前家元・元特攻隊員
千 玄室 大宗匠 (京都ロータリークラブ)

航空自衛隊岐阜基地で現役パイロットに思いを伝える



2 裏千家第15代・前家元 千 玄室 大宗匠について

【プロフィール】

1923年(T.12)年京都市

文学博士

S.39年千利休居士15代家元を継承(41歳)

裏千家今日庵 庵主として宗室を襲名

H.14年嫡男に家元を上譲座し千 玄室 大宗匠に改名

「一碗からピースフルネス」の理念を提唱し国際的な茶道文化の浸透と世界平和を願い各国を歴訪

現在:外務省参与、ユネスコ親善大使、(財)日本国際連合協会会長、(社)日本馬術連盟会長、京都大学
大学院特任教授 他多数

紫綬褒章、藍綬褒章、文化功労者国家顕彰、文化勲章 他多数

【ロータリー歴】

1954(S.29)年 31歳 京都南ロータリークラブ創設につきチャーターメンバーとして入会

1965.7 京都ロータリークラブへ移籍

1972-73 京都ロータリークラブ会長

1975-76 国際ロータリークラブ第2650地区ガバナー

1975-81 ロータリー日韓親善委員長

1983-85 国際ロータリー会長諮問委員

1998-90(H.10-12) 国際ロータリー理事

1992-96 ポリオ撲滅委員会国内委員長

2005 国際ロータリー栄誉賞受賞(Rotary 100周年で)

2010-12 公益財団法人ロータリー日本財団会長

2012-現在 公益財団法人ロータリー日本財団理事長

2021 日本のロータリー100周年を祝う会委員長



3 千玄室大宗匠の戦争体験と平和への思い

・茶家であり武家であったことから『文武両道の精神』を鍛えられた

- ・8歳頃から馬に乗り、中学の頃は、軍事訓練、とにかく身体を鍛える
- ・中学の先生から**満蒙開拓少年団**に行くとか、**予科練**とか**少年兵**になって陸軍や海軍に行くのも良いぞと言われた
- ・文系の学生18歳以上は、**全員徴兵検査**を受ける。これは**義務**である
- ・大学1年生の時、たまたま大学の掲示板に海軍の訓練生という水上機班や陸上班の募集（大津の琵琶湖にて）⇨水上機をやってみようと呼募⇨合格（関西の大学から20名が選抜）
- ・水上機の訓練⇨カッターの訓練、手旗、通信、飛行作業等習った。水練は特に大変であった
- ・土浦の海軍航空隊に入隊⇨選抜された優秀な学生ばかり⇨試験に次ぐ試験で落ちると海兵団に戻り水兵に⇨合格者は、**士官候補生**になる
- ・徳島の海軍航空隊にて特別攻撃（特攻）の命が下る⇨搭乗員200名程⇒特攻隊に志願するか紙に書いて出す（否・希望・熱望）⇨**神風特別攻撃隊⇨待機命令**
- ・鹿屋海軍基地（S20.5.19）⇨ここでもお茶が飲める茶箱のセット（旅簞笥）でお茶を点てて飲んでもらった。

『帝国海軍士官としてみんな、誇りを持って死んでくれ』

そんな訓示ばかりです

- ・君達は、『死にに来てくれたんだ、死にもの狂いでやれ』
- 一年半掛かるところを10ヶ月でやれ！朝から夜まで飛行機詰め
- ・当時の整備員は、凄かった！あんなオンボロ飛行機を飛ばすようにするんだから……

- ・南方戦線の硫黄島、フィリピン等は、凄かった。随分戦死しました。
- ・ビルマ戦線では、挟み撃ちにあつて飢餓戦線になり、みんな倒れていった。一中隊で精々3人位しか残らなかった。
- ⇨私の教え子の一人がそうであった

- ・北方へ行った者は、みんなソ連の捕虜になり強制労働です。
- 5年経って生きて帰って来た者は、皆幽霊みたいでした。
- ⇨あの国は、酷い。
- ⇨世界で唯一の被爆国である日本がウクライナの事を『他山と思つてはいけない。皆で助け合わなくは』と提唱された。

この戦争はいったい何だったのか？

戦後、77年間、『私はじくじたる思いで生きてきました』

皆の顔が浮かびます。

私の背後には、特攻で戦死した人がいます。

戦友たちは『自分が死ぬことで国が救われる』という気持ちで飛び立って逝きました。

421柱、その連中が

平和ボケしている今の日本を見たらどう思うか。

そのことを考えると本当に申し訳ない気持ちになります。

毎年靖国神社で陸・海軍の**戦没者慰霊祭**があります。

私は、生き残りとして毎年参列します。

このようなことにならないために

ロータリーでいう（超我の）《奉仕》の精神が必要です

「Service above Self」

自分を乗り越えた奉仕の精神が必要

4 奉仕の理想（理念）

・浦田直前ガバナーの地区方針

『つねに超我の奉仕（Service above Self）を胸に』

『先ずは自分のことよりも世のために役立つ事をしましょう』

これこそがロータリーの目的（綱領）である『奉仕の理想（理念）』

・「奉仕の理想(理念)」とは、

1、超我の奉仕「Service Above Self」（第1のモットー）

2、最も良く奉仕する者、最も多く報いられる（第2のモットー）

「He (One) Profits Most Who Serves Best」

3、他者への思いやり「Thoughtfulness of Others」

4、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい「Most of All Treating Others as One Would Like to Be Treated」

（聖書「マタイによる福音書7章12節」の「黄金律」）

すなわち

「他人のために尽くすことが自らの幸せであり・喜びである」

という他人に奉仕すること自体を目的とする「利他主義」の思想である

これがロータリーの考えであり、「奉仕の理想（理念）」である

5 決議23-24第1項をめぐる日本の歴代RI理事の「闘争」

決議23-34

1923（T12）年、全米ロータリークラブ連合会セントルイス大会で上程された第34号議案である。

第1項

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは、利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。

この哲学は、「超我の奉仕」の哲学であり、「最も良く奉仕する者最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものである。

⇒1970(S.45)年頃から3Hプログラム、ポリオプログラム等の人道奉仕を団体奉仕として進展させるために、クラブの奉仕の自治権や個人の人格向上を理念とする決議23-34は、その進捗を阻むものと考えられ、再三規定審議会に廃止案が上程された。

⇒これを憂いた千宗室RI理事をはじめ、日本の歴代RI理事の「闘争」と称した多大な努力によって撤廃を免れてきた。

⇨2010(H.22)年の規定審議会において周知な準備を行い日本より上程された
 「決議 23-34 の第一項を奉仕の哲学の定義とする」
 との決議案がビチャイ・ラタクル元 RI 会長の応援演説を得て絶対多数で採決された。

6 職業奉仕について

「奉仕の理想」を実践する職業奉仕とは？

1911(M.44)年に Arthur Frederick Sheldon が語った「奉仕の概念」

我々ロータリアン個人が

「事業を行うとき、それが社会の人々を幸せにすることであらねばならない」

と語り、これが今、我々が「職業奉仕」とよんでいる原点である

この職業奉仕 Vocational Service という考えは

ボランティア活動や寄付だけを目的とする一般の奉仕団体とは全く違う「ロータリー独自」のものであり、我々ロータリアンすべての心構えでありロータリーの基礎的な理念となっている

これが「職業奉仕」である

ロータリーの本質

他の人のために生き、世話をし、奉仕することで誰かの人生を豊かにすること、それは、自分の人生の最高の生き方である

「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」

このロータリーの理念が世界の人々を幸せする⇒ 戦争は起こらない

7 まとめ

職業奉仕の理念を基礎とするロータリー理念は、

◎人生において人としてのあるべき姿を導いてくれるもの

◎社長としてのあるべき姿（王道）の一つを学ぶことができるもの

◎我々ロータリアンは、例会に出席して親睦を深め、職業奉仕を学び、自己を研鑽し、倫理を高める

⇨これが日本のロータリーの伝統的文化である

◎我々ロータリアンは、

奉仕の理念（理想）を実践する人、すなわち

自分でなく他者への思いやりの心を持って

他者への最善のサービスを行い

職業奉仕の理念（社会の人々を幸せにすること）を実践する人でなければならない

◎我々ロータリアンは、あらゆる生活（個人生活・職業生活・社会生活等）において

四つのテストを自省し、奉仕の理念（理想）を実践する人である

⇨それが「社会の世界の平和につながる途」である